

平成 29 年 12 月 1 日

～ 農作物の周年栽培技術の活用を支援 ～
QB 第一号ファンド 「農業生産法人 株式会社 リコペル」 への出資について

当社の子会社である西日本シティ銀行（頭取 谷川 浩道）は、本日、「QB 第一号ファンド『農業生産法人 株式会社 リコペル』への出資について」を公表しましたので、お知らせします。

詳細は、別紙をご参照ください。

以 上



平成 29 年 12 月 1 日

～ 農作物の周年栽培技術の活用を支援 ～
QB 第一号ファンド 「農業生産法人 株式会社 リコペル」 への出資について

西日本シティ銀行（頭取 谷川 浩道）は、地域の事業会社等と共同で出資している「QB 第一号ファンド」（以下「本ファンド」）において、8 件目の投資案件となる「農業生産法人 株式会社 リコペル（代表取締役社長 米田 茂之）」（以下「当社」）へ出資を行いましたので、お知らせします。

出資先は、国立大学法人九州大学／農学研究院出身の米田 茂之氏が起業したベンチャー企業で、高糖度トマトの周年栽培を実現しています。新事業として「果樹の四季なり栽培技術（周年栽培）」を導入し、より高品質・高単価な農作物の作付面積あたりの収量増加と年間を通じた安定出荷を目指しています。

当行は、地域金融機関として、本ファンドを通じて大学発ベンチャーの成長及び地域経済の活性化を積極的に支援してまいります。

記

1. 対象企業の概要

会 社 名	農業生産法人 株式会社 リコペル
本 社 住 所	山梨県北杜市白州町鳥原 57 番 2 号
代 表 者	米田 茂之
設 立	平成 26 年 5 月
事 業 内 容	果樹四季なり栽培技術 ^(※1) を活用した農作物の多品目生産 （平成 29 年度「農業界と経済界の連携による生産性向上モデル農業確立実証事業 ^(※2) 」を活用）
資 金 使 途	いちご、ブルーベリー、レモン栽培ハウスの新設資金及び運転資金

※1：東京農工大学農学研究院/荻原教授が開発した、日長や温度を制御することによって、果樹に花が咲きながら実がつく現象（すなわち四季なり化）を維持させて通年で果実を収穫できる栽培方法。

※2：意欲ある農業法人等と先端技術を有する経済界の企業等が連携して行う、低コスト生産技術体系の確立など、農業経営における新しいビジネスモデルの確立に向けた、農林水産省所管の補助事業。

2. 出資の理由

本件は、四季なり栽培技術を活用し農作物の周年栽培に取り組む当社下記の点を評価し、出資を行いました。

- (1) 新たな農業生産方式の実証及び普及
 すでにトマト生産で実証済みの「四季なり栽培技術」を他の作物にも応用することで、新たな農業生産方式の実証及び普及に取り組むこと。
- (2) 農業のビジネスモデルの創造可能性
 代表取締役である米田氏は農学研究院出身であり、農業を「科学」として捉えるだけの知見とマーケティングの視点を持ち、新たな農業のビジネスモデルを創造する可能性を秘めること。
- (3) 地域経済の活性化
 大学の研究成果を活用した新たな事業の創出及びベンチャー企業の創業支援を行うことにより、地域経済の活性化が期待されること。

以 上

参 考

『QB第一号ファンドについて』

本ファンドは、当行が九州大学の特定関連会社である株式会社産学連携機構九州と共同で設立したQBキャピタル合同会社が運営するもので、九州地域の大学の研究成果を活用した新産業の創出による九州経済活性化を目的に設立されました。

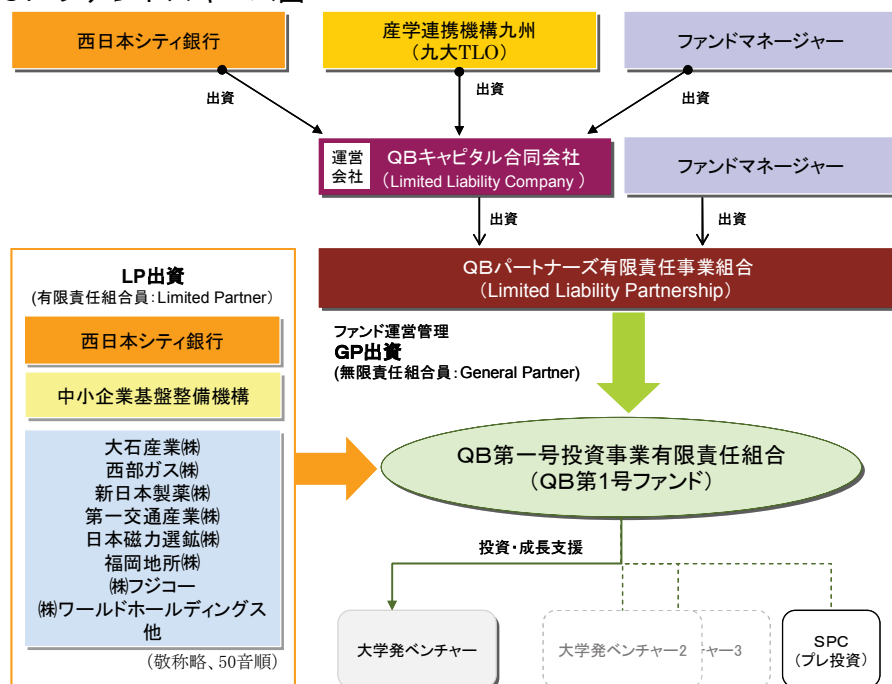
1. ファンドの概要

名 称	QB 第一号投資事業有限責任組合（通称：QB 第一号ファンド）
設 立 日	平成 27 年 9 月
フ ァ ン ド 総 額	約 31 億円
無 限 責 任 組 合 員 (GP : General Partner)	QB パートナーズ有限責任事業組合
有 限 責 任 組 合 員 (LP : Limited Partner)	株式会社西日本シティ銀行、独立行政法人中小企業基盤整備機構 地域事業会社 他
存 続 期 間	10 年間

2. 運営会社の概要

名 称	QB キャピタル合同会社
設 立 日	平成 27 年 4 月
所 在 地	福岡市早良区百道浜 2-1-22 SRP センタービル
出 資 者	株式会社西日本シティ銀行、株式会社産学連携機構九州 他
代 表 社 員	坂本 剛、本藤 孝

3. ファンドスキーム図



本件に関するお問い合わせ先
 法人ソリューション部 渡辺・多良木 TEL092-476-2741